

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3372800221 | | |
| 法人名 | 有限会社 本陣会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 本陣 (東の丸) | | |
| 所在地 | 岡山県小田郡矢掛町矢掛2557 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30 年 8 月 3 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3372800221-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成 30 年 8 月 28 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が心地よく過ごして頂けるように、優しく寄り添いながら毎日を送っています。開所から15年が経過しました。地域で採れた野菜で、手作りの食事を提供しています。スタッフの勤続年数も長く、管理者を中心にチームワークのとれたケアの提供をしています。認知症の方の生活の場所というだけでなく、認知症についての指導や相談など地気の中での役割を担って行けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

7月に起きた災害時も落ち着いて安全に利用者を避難場所へ誘導するなど、日頃から外出支援に取り組んでいる成果が表れている。毎月1日を「防災の日」として事業所独自に定め、避難経路のチェックや防災頭巾を活用した訓練等に取り組むなど、職員の防災意識も高く、意識付けもなされている。また、積極的に災害訓練にも取り組んでいる。職員が管理者に気軽に何でも相談できる環境が整っており、職員の意見や要望が率直に現場で反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月ケアミーティングで読み合わせをしている。又、事務所や日誌へは内容を貼りだし、常に目に触れるようにしている。 | 毎月ミーティングの前に初心に帰り、理念を見つめ直している。また、日誌や事務所に運営方針や理念を掲示し、職員全員に周知している。入社面接時、理念について話をしており、理解した職員が採用されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事にはなるべく参加するようにしている。大名行列や雛流し、大仙様の大祭など。施設側としては、夏祭りやクリスマス会など、ボランティアの方や地域の方の協力・参加をお願いしている。毎月第3土曜日はカフェとして地域開放し、交流を深める。 | 町内会に入会し、地域の敬老会などに積極的に参加している。また、大正琴や踊りのボランティアが来たり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。年一回保育園の慰問や月一回家族ボランティアの来訪もあり、密接に地域と交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で認知症の症状や対応について、今現実施設内の症例を提起している。皆さんの経験や知識を参考にしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議において、グループホームでの生活を理解して頂いている。会議の内容は記録に残し、玄関に掲示している。職員へはミーティングの際内容を報告している。運営推進会議では毎回議題を決め、コミュニケーションを図り、情報収集、伝達、有効利用している。 | 民生委員や役場の人、ボランティア等が参加して定期開催している。また、議事録を玄関に掲示し、広く情報発信している。近況報告やヒアリング等を報告したり、身体拘束やセンサーマット導入について話し合ったりしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設で取り組んでいることはアピールしながら利用者様、スタッフにとってより良い環境となる様意見交換をしている。 | 役場の人や運営推進会議に毎回参加しており、不安点や分からない事などを聞いている。また、役場主催の研修会や認知症疾患医療連携協議会などに積極的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止については、ケアミーティングで理念同様読み合わせをしている。『身体拘束をしない。』という意識を高めることが最も大切なことである。万が一身体拘束を開始した場合は即座に廃止委員会を設置し、利用者様に精神的負担をかけず、且つ安全第一にケアしている。 | 身体拘束について、毎月ケアミーティングの中で話し合ったり、運営推進会議で取り上げたりしている。「身体拘束しない」をモットーに、身体拘束排除理念及び事故対策理念を読み合わせしている。また、年間行事の中に勉強会を組み込み、職員へ資料提供するなど、前向きに身体拘束しないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の資料は大切な部分をコピーし閲覧している。個々が内容を熟読すること。日々の生活の中で身体虐待だけでなく、言葉の虐待について慣れ親しく話す言葉にも気をつけるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在活用している利用者様がいる。必要性の判断に至るためには我々の情報提供が大きな意味を持つという認識が必要である | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 全てが十分理解できていることはない。契約者側の立場での言い回しになっていないのかと常に確認をするよう意識している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族が来訪されたら入居者の様子をお伝えしながら、ご家族の要望をくみ取るようにしている。信頼関係を作ることを大切にしている。意見箱の設置もしている。 | 利用者は日常的に、家族は面談時に意見や要望を聞き取っている。家族が言いやすく・聞きやすい環境を整えており、会話する内容を省略せず、甘んずる事がないように取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングでは、運営・オーナーに対する要望を話し合い、ホーム長から伝えている。利用者様、スタッフがより良い環境作りを目指している。 | 施設長や管理者に直接言ってくる職員が多く、出た意見は、トイレの電気・センサーの設置や危険箇所の対策等に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 可能な限り勤めている。施設の存続と福利厚生はどちらか一方だけではなく、共に必要なことである。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加はかなり困難である。資格習得へは個人の考えもあるが、給与アップへつながることを励みに声掛けをしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在は交流はない。今後運営推進会議などでの交流を期待する。その為にはまず当施設からの働きかけが必要であると考え。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居されたら優しく寄り添い、常に訴えに耳を傾ける。必ず自分のことを支えてくれるのだということが伝わる様支援していきたい。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご入居の申し込みや見学の際は今一番困っていることへの対応。その上で本当にグループホームへのご入居が必要なのか、待っている間のサービスの必要性などを話し合うようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 上記内容 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 24時間を共に過ごし、同じ食事をしている。時には人生経験豊富な利用者様の意見を参考に行動している。何事にも動じない姿に感心している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 何があっても常に正直に伝えること。自分たちの考えや思いも含めて正直に伝えて、ご家族様の思いも大切に共に支えている関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会の自由や電話での会話など可能な範囲での開放をしている。利用者様が喜ばれる関係は続けことができるように。 | 命日や気候の良い時に家族と墓参りに行ったり、正月やお盆に帰省したりする利用者があり、個々の生活習慣を尊重すると共に、馴染みの関係が継続できる様、取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 不満や攻撃性の強い利用者様の言動については上手く仲裁出来るよう努力している。しかし、職員も人間であり感情的になってしまうこともある。私個人としてはそれもまた人間がすること。人と人の関わりの中のことかと理解している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 偶然出会った時にはお互いに声をかけ合い状況の確認を行う。退居後も尋ねてくれる関係性である。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | できること。できないこと。の把握に努め、今望まれていることへの支援を行う | 日常生活の中で利用者の思いや希望を把握しており、職員は酸いも甘いも全て把握している。困難な場合は、家族や身近にいた人に話を聞いたり、ケアミーティングの中で振り返ったりしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントシートの活用。ご本人やご家族への聞き取りを行う。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ること。出来ないことシートの充実を図る。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のケアミーティングで一人一人の心身の状況などを話し合い、ケアプランの見直しなどの必要性をプランに反映している。 | 各ユニットに分かれてケアミーティングを行っており、利用者の現状に合わせた介助方法や家族の意見等について話し合っている。一年に一度モニタリングを行っているが、入院や区分変更など、容体に変化が生じた時はその都度、対応している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 問題点に添った記録に心かけている。日々の実践の中で変更したことは申し送りノートや日誌等で共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身体機能や認知機能の低下に伴い必要とされるケアが変化していく、ご本人は当然のこと周りの利用者様も安心・安全に生活できるよう今の現状を常にお話している。例えば、特養、病院などへの移動 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | デイサービスを併設しているが、入居までの間は利用頂き連絡が密に取れるようにしている。当施設以外でもご本人の希望に添えるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | あゆみクリニックが協力医であることは伝えている。その上で主治医の変更についてはご本人に決定して頂く。あゆみだけでなく他の病院への受診介助についても行う。特に既往歴の状態によっては現在の主治医の継続をお願いすることもある | 家族と利用者の希望・要望に合わせて対応している。主治医を継続している利用者の対応は施設長が行い、町外のかかりつけ医は家族にお願いしている。歯科はその都度連絡して、往診してもらっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の生活の中で変化に気づき対応しているのは介護スタッフである。医療行為については報告を受け対処している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 矢掛病院が主な入院施設となる。地域連携室の職員とは日頃から連携しており、入院・退院の際はスムーズに出来ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時の看取りに対する意見・希望も状況変化により変わっていく。十分な話し合いをした上で今後の方向性をその都度考えている。 | 入居時、利用者や家族にはつきりと出来る事・出来ない事を説明し、ターミナルや看取りに関する資料を職員に回している。看取り後、振り返りを行っており、全職員で方針を共有しながら、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 24時間連絡が受けられる体制としている。緊急時の連絡先や方法など事務所に明記している。夜間は夜間支援の職員が補助に入る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルや避難訓練など決められていることは実施している。先日の水害の際、職員間の信頼関係・利用者さまとの信頼関係、そして日々の生活の中での利用様の理解、様々なことが重なりあって初めて多くの命をまもることができると実感した。 | 年2回、昼夜想定の下、利用者と一緒に避難訓練を行っている。おしめやお菓子など、日常的に不足しないよう管理している。毎月1日を防災の日と定め、防災頭巾を被ったり、消火器やシルバーカーの点検を行っている。 | 更なる高みを目指し、消防署立会いによる訓練実施に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 地方の言葉で親しくなれる面もありますが、その方の人格やプライバシーには配慮しています。施設は常に地域に開放している。 | 行動する時は必ず利用者に確認している。また、排泄時の声かけや着替えなど、利用者のプライバシーに配慮した言葉かけや対応に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 声掛けの仕方には配慮する。自己決定できるような質問の仕方に心がける。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員がひとりの時間帯では全ての希望は聞くことができない。優先順位や内容により対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方の雰囲気やイメージは大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 一番の楽しみはやはり食事です。地元の食材を使用し、その方の状態に沿った形態で楽しんで食べていただいている。『美味しかった。』の一言が元気の源です。 | 3食ともに手作りであり、お彼岸や土用丑の日にはおはぎや鰻を提供している。また、家族と一緒に定期的にランチに行ったり、本陣カフェで飲み物やお菓子を食べたりするなど、環境を変えることで利用者も大変喜んでい | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量の把握と記録。必要に応じては補助食品を使用し、一日でも長く本陣での生活ができるよう支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 衛生水を使用し、毎食後のうがいや舌ブラシの使用。まずご自分でを行い、最後介助をする。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自分で訴えの無い方以外その方のパターンで誘導している。布パンツでの対応が望ましいが、状態により各個それぞれの排尿パターンや排尿量などを記録し、その方の負担が軽い物を選んでいる。 | 日中はトイレ誘導、夜間は定時誘導・ポータブルトイレ使用など、利用者の状況・状態に合わせて対応している。ポータブルトイレは利用者に配慮した使用方法を考えている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳やヨーグルトなど食品から便秘解消を図り、困難な場合は主治医と相談のうえ内服の使用 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 家庭浴でゆっくり楽しんでいただく。しかし、身体機能低下により二人での介助によって入浴していただいたり、場合によってはシャワー浴になることもある。入りたいときに入れるのが一番の望みである | 週2回の入浴支援に取り組んでおり、冬至には柚子風呂を提供している。入浴を嫌がる利用者には「お風呂」と言う言葉を使わず、「シャワー行こう！」と言葉を変えて声かけしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間やタイミングは個々に応じて対応している。夜間訴えが多く不眠の利用者様へはご本人が納得して就寝出来るよう会話を重ねている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や説明書を眼に触れる場所に置き、いつでも見れるようにしている。個人の薬カレンダーから一回ごとの箱へ入れ替えを行い間違いの無いよう提供している。変更があった場合は日誌等で連絡し、症状の変化については記録へ残すようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物をたたんでくださったり、テーブルを拭いてくださったり、ここの能力に応じた声掛け・介助を行う。家事以外では四びしや塗り絵などもある | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎月第三土曜日にカフェを始める。地域の方との交流と利用者様の気分転換を図ることも目的としている。テイルームでお茶を飲んだり、車でドライブに出かけたりしている。 | 職員と一緒に事業所周辺を散歩したり、車でドライブに出かけたり、季節の良い時はウッドデッキに椅子を並べて体操したり、運動したりしている。また、家族と一緒にランチやお墓参りに行く利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理をされている方で、牛乳やヤクルトなど購入している。施設へ配達に来ている業者を利用している。物盗られ妄想への配慮が必要不可欠となる | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要に応じての対応。外部からの場合やご本人の希望など、とくに制約はない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設の理念でもある心地良い空間。建物、内装、家具や掲示物など多くの配慮をしている。リビングで過ごされることが多く、新しく超高機能空気清浄機を設置し快適に過ごして頂いている。 | 天井が高く、明るくて広いホールでは、利用者が思い思いにぬり絵などを楽しんでいる。また、昔懐かしい扇風機や食器棚、利用者手作りの棚が設置されるなど、利用者に配慮した生活空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室や椅子、ソファなど設置している。居室や廊下は広く設定している為、解放感はかんじられる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭で使用されていたものを持ちこんでいただくようにしている。ただし、危険を伴う様な場合は相談の上選択している。例えば、異食や不穏など | 居室内に設置された障子が暑い日差しを遮り、心地よい空間を演出している。使い慣れた布団や馴染みの写真・仏壇などが持ち込まれており、個々に居心地良く生活できる様に配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 上記内容 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3372800221 | | |
| 法人名 | 有限会社 本陣会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 本陣 (西の丸) | | |
| 所在地 | 岡山県小田郡矢掛町矢掛2557 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30 年 8 月 3 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&digyosyoCd=3372800221-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成 30 年 8 月 28 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が心地よく過ごして頂けるように、優しく寄り添いながら毎日を過ごしています。開所から15年が経過しました。地域で採れた野菜で、手作りの食事を提供しています。スタッフの勤続年数も長く、管理者を中心にチームワークのとれたケアの提供をしています。認知症の方の生活の場所というだけでなく、認知症についての指導や相談など地気の中での役割を担って行けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

7月に起きた災害時も落ち着いて安全に利用者を避難場所へ誘導するなど、日頃から外出支援に取り組んでいる成果が表れている。毎月1日を「防災の日」として事業所独自に定め、避難経路のチェックや防災頭巾を活用した訓練等に取り組むなど、職員の防災意識も高く、意識付けもなされている。また、積極的に災害訓練にも取り組んでいる。職員が管理者に気軽に何でも相談できる環境が整っており、職員の意見や要望が率直に現場で反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月ケアミーティングで読み合わせをしている。又、事務所や日誌へは内容を貼りだし、常に目に触れるようにしている。 | 毎月ミーティングの前に初心に帰り、理念を見つめ直している。また、日誌や事務所に運営方針や理念を掲示し、職員全員に周知している。入社面接時、理念について話をしており、理解した職員が採用されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事にはなるべく参加するようにしている。大名行列や雛流し、大仙様の大祭など。施設側としては、夏祭りやクリスマス会など、ボランティアの方や地域の方の協力・参加をお願いしている。毎月第3土曜日はカフェとして地域開放し、交流を深める。 | 町内会に入会し、地域の敬老会などに積極的に参加している。また、大正琴や踊りのボランティアが来たり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。年一回保育園の慰問や月一回家族ボランティアの来訪もあり、密接に地域と交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で認知症の症状や対応について、今現実施設内の症例を提起している。皆さんの経験や知識を参考にしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議において、グループホームでの生活を理解して頂いている。会議の内容は記録に残し、玄関に掲示している。職員へはミーティングの際内容を報告している。運営推進会議では毎回議題を決め、コミュニケーションを図り、情報収集、伝達、有効利用している。 | 民生委員や役場の人、ボランティア等が参加して定期開催している。また、議事録を玄関に掲示し、広く情報発信している。近況報告やヒアリング等を報告したり、身体拘束やセンサーマット導入について話し合ったりしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設で取り組んでいることはアピールしながら利用者様、スタッフにとってより良い環境となる様意見交換をしている。 | 役場の人が運営推進会議に毎回参加しており、不安点や分からない事などを聞いている。また、役場主催の研修会や認知症疾患医療連携協議会などに積極的に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止については、ケアミーティングで理念同様読み合わせをしている。『身体拘束をしない。』という意識を高めることが最も大切なことである。万が一身体拘束を開始した場合は即座に廃止委員会を設置し、利用者様に精神的負担をかけず、且つ安全第一にケアしている。 | 身体拘束について、毎月ケアミーティングの中で話し合ったり、運営推進会議で取り上げたりしている。「身体拘束しない」をモットーに、身体拘束排除理念及び事故対策理念を読み合わせしている。また、年間行事の中に勉強会を組み込み、職員へ資料提供するなど、前向きに身体拘束しないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止の資料は大切な部分をコピーし回覧している。個々が内容を熟読すること。日々の生活の中で身体虐待だけでなく、言葉の虐待について慣れ親しく話す言葉にも気をつけるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在活用している利用者様がいる。必要性の判断に至るためには我々の情報提供が大きな意味を持つという認識が必要である | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 全てが十分理解できていることはない。契約者側の立場での言い回しになっていないのかと常に確認をするよう意識している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族が来訪されたら入居者の様子をお伝えしながら、ご家族の要望をくみ取るようにしている。信頼関係を作ることを大切にしている。意見箱の設置もしている。 | 利用者は日常的に、家族は面談時に意見や要望を聞き取っている。家族が言いやすく・聞きやすい環境を整えており、会話する内容を省略せず、甘んずる事がないように取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングでは、運営・オーナーに対する要望を話し合い、ホーム長から伝えている。利用者様、スタッフがより良い環境作りを目指している。 | 施設長や管理者に直接言ってくる職員が多く、出た意見は、トイレの電気・センサーの設置や危険箇所の対策等に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 可能な限り勤めている。施設の存続と福利厚生はどちらか一方だけではなく、共に必要なことである。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加はかなり困難である。資格習得へは個人の考えもあるが、給与アップへつながることを励みに声掛けをしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 現在は交流はない。今後運営推進会議などでの交流を期待する。その為にはまず当施設からの働きかけが必要であると考ええる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居されたら優しく寄り添い、常に訴えに耳を傾ける。必ず自分のことを支えてくれるのだということが伝わる様支援していきたい。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご入居の申し込みや見学の際は今一番困っていることへの対応。その上で本当にグループホームへのご入居が必要なのか、待っている間のサービスの必要性などを話し合うようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 上記内容 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 24時間を共に過ごし、同じ食事をしている。時には人生経験豊富な利用者様の意見を参考に行動している。何事にも動じない姿に感心している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 何があっても常に正直に伝えること。自分たちの考えや思いも含めて正直に伝えて、ご家族様の思いも大切に共に支えている関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会の自由や電話での会話など可能な範囲での開放をしている。利用者様が喜ばれる関係は続けことができるように。 | 命日や気候の良い時に家族と墓参りに行ったり、正月やお盆に帰省したりする利用者があり、個々の生活習慣を尊重すると共に、馴染みの関係が継続できる様、取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 不満や攻撃性の強い利用者様の言動については上手く仲裁出来るよう努力している。しかし、職員も人間であり感情的になってしまうこともある。私個人としてはそれもまた人間がすること。人と人の関わりの中でのことかと理解している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 偶然出会った時にはお互いに声をかけ合い状況の確認を行う。退居後も尋ねてくれる関係性である。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | できること。できないこと。の把握に努め、今望まれていることへの支援を行う | 日常生活の中で利用者の思いや希望を把握しており、職員は酸いも甘いも全て把握している。困難な場合は、家族や身近にいた人に話を聞いたり、ケアミーティングの中で振り返ったりしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントシートの活用。ご本人やご家族への聞き取りを行う。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ること。出来ないこととシートの充実を図る。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月のケアミーティングで一人一人の心身の状況などを話し合い、ケアプランの見直しなどの必要性をプランに反映している。 | 各ユニットに分かれてケアミーティングを行っており、利用者の現状に合わせた介助方法や家族の意見等について話し合っている。一年に一度モニタリングを行っているが、入院や区分変更など、容体に変化が生じた時はその都度、対応している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 問題点に添った記録に心かけている。日々の実践の中で変更したことは送りノートや日誌等で共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 身体機能や認知機能の低下に伴い必要とされるケアが変化していく、ご本人は当然のこと周りの利用者様も安心・安全に生活できるよう今の現状を常にお話している。例えば、特養、病院などへの移動 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | デイサービスを併設しているが、入居までの間は利用頂き連絡が密に取れるようにしている。当施設以外でもご本人の希望に添えるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | あゆみクリニックが協力医であることは伝えている。その上で主治医の変更についてはご本人に決定して頂く。あゆみだけでなく他の病院への受診介助についても行う。特に既往歴の状態によっては現在の主治医の継続をお願いすることもある | 家族と利用者の希望・要望に合わせて対応している。主治医を継続している利用者の対応は施設長が行い、町外のかかりつけ医は家族にお願いしている。歯科はその都度連絡して、往診してもらっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の生活の中で変化に気づき対応しているのは介護スタッフである。医療行為については報告を受け対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 矢掛病院が主な入院施設となる。地域連携室の職員とは日頃から連携しており、入院・退院の際はスムーズに出来ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時の看取りに対する意見・希望も状況変化により変わっていく。十分な話し合いをした上で今後の方向性をその都度考えている。 | 入居時、利用者や家族にはっきりと出来る事・出来ない事を説明し、ターミナルや看取りに関する資料を職員に回している。看取り後、振り返りを行っており、全職員で方針を共有しながら、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 24時間連絡が受けられる体制としている。緊急時の連絡先や方法など事務所に明記している。夜間は夜間支援の職員が補助に入る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルや避難訓練など決められていることは実施している。先日の水害の際、職員間の信頼関係・利用者さまとの信頼関係、そして日々の生活の中での利用様の理解、様々なことが重なりあって初めて多くの命をまもることができたと実感した。 | 年2回、昼夜想定の下、利用者と一緒に避難訓練を行っている。おしめやお菓子など、日常的に不足しないよう管理している。毎月1日を防災の日と定め、防災頭巾を被ったり、消火器やシルバーカーの点検を行っている。 | 更なる高みを目指し、消防署立会いによる訓練実施に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 地方の言葉で親しくなれる面もありますが、その方の人格やプライバシーには配慮しています。施設は常に地域に開放している。 | 行動する時は必ず利用者に確認している。また、排泄時の声かけや着替えなど、利用者のプライバシーに配慮した言葉かけや対応に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 声掛けの仕方には配慮する。自己決定できるような質問の仕方に心がける。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員がひとりの時間帯では全ての希望は聞くことができない。優先順位や内容により対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方の雰囲気やイメージは大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一番の楽しみはやはり食事です。地元の食材を使用し、その方の状態に沿った形態で楽しんで食べていただいている。『美味しかった。』の一言が元気の源です。 | 3食ともに手作りであり、お彼岸や土用丑の日にはおはぎや鰻を提供している。また、家族と一緒に定期的にランチに行ったり、本陣カフェで飲み物やお菓子を食べたりするなど、環境を変えることで利用者も大変喜んでい | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量の把握と記録。必要に応じては補助食品を使用し、一日でも長く本陣での生活ができるよう支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 衛生水を使用し、毎食後のうがいや舌ブラシの使用。まずご自分でを行い、最後介助をする。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自分で訴えの無い方以外その方のパターンで誘導している。布パンツでの対応が望ましいが、状態により各個それぞれの排尿パターンや排尿量などを記録し、その方の負担が軽い物を選んでいる。 | 日中はトイレ誘導、夜間は定時誘導・ポータブルトイレ使用など、利用者の状況・状態に合わせて対応している。ポータブルトイレは利用者に配慮した使用方法を考えている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳やヨーグルトなど食品から便秘解消を図り、困難な場合は主治医と相談のうえ内服の使用 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 家庭浴でゆっくり楽しんでいただく。しかし、身体機能低下により二人での介助によって入浴していただいたり、場合によってはシャワー浴になることもある。入りたいときに入れるのが一番の望みである | 週2回の入浴支援に取り組んでおり、冬至には柚子風呂を提供している。入浴を嫌がる利用者には「お風呂」と言う言葉を使わず、「シャワー行こう!」と言葉を変えて声かけしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間やタイミングは個々に応じて対応している。夜間訴えが多く不眠の利用者様へはご本人が納得して就寝出来るよう会話を重ねている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳や説明書を眼に触れる場所に置き、いつでも見れるようにしている。個人の薬カレンダーから一回ごとの箱へ入れ替えを行い間違いの無いよう提供している。変更があった場合は日誌等で連絡し、症状の変化については記録へ残すようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物をたたんでくださったり、テーブルを拭いてくださったり、この能力に応じた声掛け・介助を行う。家事以外では四ひしや塗り絵などもある | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎月第三土曜日にカフェを始める。地域の方との交流と利用者様の気分転換を図ることも目的としている。デイルームでお茶を飲んだり、車でドライブに出かけたりしている。 | 職員と一緒に事業所周辺を散歩したり、車でドライブに出かけたり、季節の良い時はウッドデッキに椅子を並べて体操したり、運動したりしている。また、家族と一緒にランチやお墓参りに行く利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理をされている方で、牛乳やヤクルトなど購入している。施設へ配達に来ている業者を利用している。物盗られ妄想への配慮が必要不可欠となる | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要に応じての対応。外部からの場合やご本人の希望など、とくに制約はない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設の理念でもある心地良い空間。建物、内装、家具や掲示物など多くの配慮をしている。リビングで過ごされることが多く、新しく超高機能空気清浄機を設置し快適に過ごして頂いている。 | 天井が高く、明るくて広いホールでは、利用者が思い思いにぬり絵などを楽しんでいる。また、昔懐かしい扇風機や食器棚、利用者手作りの棚が設置されるなど、利用者 に配慮した生活空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室や椅子、ソファなど設置している。居室や廊下は広く設定している為、解放感はかんじられる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家庭で使用されていたものを持ちこんでいただくようにしている。ただし、危険を伴う様な場合は相談の上選択している。例えば、異食や不穏など | 居室内に設置された障子が暑い日差しを遮り、心地よい空間を演出している。使い慣れた布団や馴染みの写真・仏壇などが持ち込まれており、個々に居心地良く生活できる様に配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 上記内容 | | |